

学業特化型学習データベース：運用マニュアル

このマニュアルでは、Antigravity上の「Study_Base」を使いこなし、学業（講義・リサーチ・執筆）を圧倒的に効率化する方法を解説します。

1. セットアップ：エージェントの「脳」を作る

最初に 00_System フォルダを完成させます。これにより、エージェントはあなたの専門性や文章の好みを完全に理解します。

- **profile.md を更新:** 学年、専攻、関心のあるテーマ（経済史、社会思想など）を記述します。
- **agent_instructions.md を定義:** 「簡潔に」「批判的に」「だ・である調で」といった振る舞いを固定します。

2. 日常の学習サイクル（3ステップ）

Step 1: インプット（01_Active_Courses）

新しい科目やテーマに着手する際、該当フォルダに資料を集めます。

- **収集:** PDF、Web記事のテキスト、講義メモを materials/ や notes/ に保存。
- **エージェント活用:** - 「この資料の要点を3つ、notes/ に要約して保存して」
 - 「この論文の論理構成を分析して、不足している視点がないか教えて」

Step 2: 知識の連結（02_Knowledge_Base）

個別の科目を越えた「知のネットワーク」を作ります。

- **資産化:** 特定の思想家や理論など、他科目でも使える内容は 02_Knowledge_Base/Theory などへ移動またはコピー。
- **エージェント活用:**
 - 「いま学んでいる『日本経済史』の事象を、『フランス社会思想』の観点から解釈できるか提案して」
 - 「この用語は、以前学んだ〇〇の概念とどう違う？」

Step 3: アウトプット（03_Drafting_Lab）

レポートの執筆フェーズです。

- **構成案の作成:** notes/ をスキャンさせ、Artifacts機能でアウトラインを生成。
- **執筆と添削:** 草稿を current_work/ に置き、エージェントと推敲。
- **エージェント活用:**
 - 「style_guide.md に基づいて、この草稿の表現を学術的なトーンに修正して」
 - 「論理が飛躍している箇所に『要検討』とマークして」

3. エージェントへの具体的コマンド例

Antigravityのチャット欄で以下のフレーズを使うと、システムが効率的に動きます。

| コマンド | 期待される動作 || 「リサーチモード：

テーマ

」 | resource_index.md の情報源に基づき、信頼性の高いソースを探し、要約を生成する。 || 「ロジックチェック」 | 現在開いている執筆ファイルの論理的な矛盾や、根拠が薄い箇所を指摘させる。 || 「概念接続」 | 新しい知識と、 02_Knowledge_Base 内の既存知識との関連性を考察させる。 || 「スタイル統一」 | style_guide.md に従い、文章の語尾、引用形式、禁則語を自動修正させる。 |

4. 知識を資産に変えるコツ（Archiveの運用）

科目が終了し、単位を修得した後は 99_Archive へ移動させますが、単に捨てるものではありません。

- **振り返り:** 「この科目で得た最大の知見を1つのファイルにまとめて 02_Knowledge_Base に置いて」とエージェントに指示。
- **検索性の維持:** Antigravityはフォルダ横断検索が得意なため、アーカイブした過去のレポートも「以前のレポートで使ったあの論理構成を再利用したい」といった時にエージェントが掘り起こしてくれます。

5. 禁止事項と注意点

1. **AIの丸写しをしない:** エージェントはあくまで「提案」です。自分の言葉で再構成し、 03_Drafting_Lab で自分の思考を必ず介在させてください。
2. **フォルダ構造を守る:** エージェントは「どこに何があるか」をフォルダ名で判断します。ルールを崩さないことが、AIの精度を維持するコツです。